

「あこがれの自分を目指して ～共に歩む！一人でも翔ぶ！～」

平成29年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成30年3月23日(金)発行 第 48 号 発行責任者:高橋 弘悦

西山中学校全教育活動終了 お世話になりました



本日3月23日をもちまして、平成29年度すべての教育活動の終了とともに、西山中学校としてのすべての教育活動が終了となります。本年度1年間を通じて、多くのご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

本校では4年前から「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」を取り入れ、全校生徒、全職員一丸となって取り組んでまいりました。最終年となる今年度は、「西中ほのぼの夢工房」では、子どもたちの努力で、当初のねらいであった大きな収益を得ることができました。

諸活動でも12名での合唱コンクールで優良賞の連続受賞、バドミントンでの優勝と県大会出場など、最後を飾るにふさわしい多くの成果を上げることができました。

これら多くの成果を上げることができましたのも、西山ならではの保護者の方をはじめとする地域の方々のご協力の賜物と存じます。

「少人数『だけれども』、少人数『だからこそ』」できる教育が大きく結実し、世に西山中学校を十分に知らしめることができた1年間だったと思います。西山中学校は間もなくその歴史を閉じますが、この精神を引継ぎ、子どもたちには次のステージで大きく羽ばたいて欲しいと思います。ありがとうございました！

平成30年3月23日

柳津町立西山中学校長 高橋 弘悦

修了式式辞

平成30年2月28日

太陽の光がまぶしく感じられる季節になりました。今年冬が厳しかった分「厳しさに耐えきった！」と心から感じ、春の気配がとても心地よく感じます。このような感覚は、ここ西山のように雪深いところに住むものにしか感じ得ない喜びだと思います。

さて、本日をもって平成29年度の全課程の修了、そして西山中学校としての全教育活動を終了します。学校には、学校の歴史を記載した沿革史というものがあります。その沿革史をひもといてみると、昭和22年4月25日に5名の先生が着任、5月1日に校長先生、そして5月3日に開校記念式典が開催され、西山中学校の歴史が始まっています。



以来七十年の歴史を積み重ねながら西山中学校は多くの活動をしてきました。その歴史が本日西山中学校としての最後の行事、この修了式で終えることとなります。最後を飾る皆さんのこの一年はどのようなものだったのでしょうか。

西山中学校では、今年「あこがれの自分をめざして 共に歩む、一人でも翔ぶ！」をスローガンに教育活動を展開してきました。特に今年めざしていたのは「一人でも翔ぶ」生徒の育成です。思いをこめたのは、まわりの状況を見ながら「遠慮して合わせる」のではなく、とび出る杭になって欲しいと思ったからです。自分を高めるために、あえて困難な道を選び、自分の意志で挑戦する生徒を育成したい、と考えていました。もちろん統合を意識してのことです。統合して、大多数にあわせる子どもではなく、楽ではない道をあえて選ぶ生徒を育成し、統合に備えたいと思っていました。

先日、卒業式がありました。皆さんには「卒業式はバロメータ。『私を見てください』といえる卒業式にしよう！」とお願いしてきました。その年の学校のレベルは、卒業式に出るとわかります。特に式中の歌を生徒がどのように歌うかでレベルがわかります。ただ、本校で心配なのは歌う人数がきわめて少ないということです。隣の人に合わせて歌おうと思っても、距離が遠いので聞こえません。そうすると、人に頼らず、自分の判断で大きな声を出すこととなります。一人でも「声を出すのが恥ずかしい」と思ったら、全体の合唱がとても貧弱なものになります。皆さんの責任は大変重いものでした。

皆さんは、こうした心配をもともせず、一人ひとりが臆せず大きな声で歌ってくれました。まさに「一人でも翔ぶ」姿でありました。本当にありがとうございました。

こうした姿勢は、この一年間の活動でしっかり出されてきたと思います。皆さんは、分刻みでさまざまなことにあたりまえのように取り組み、大きな成果を上げてきました。その結果が今の姿であろうと思います。フェイドアウトではなく超新星爆発を起こして終わろうと話してきましたが、まさに超新星爆発は起きたと思っています。

長い歴史を誇る西山中学校がその役割を閉じることに悲しみを禁じ得ませんが、皆さんの勇気と覚悟、そして西山中学校の伝統と精神を堅持し、会津柳津学園中学校で活躍することを祈って式辞とします。